

鳴子伝統こけしのはなし

鳴子温泉地域でつくられる伝統こけし。親から子、師から弟子へと、それぞれの特徴が受け継がれている。

「重ね菊」や「菱菊」などの花模様

材料は主にミズキの木



NARUKO
KOKESHI

首を回すと
キュッキュッと
音が鳴るはめ
こみ式の構造

肩が張って
中央はややくびれ
裾が広がった
安定感のある
シルエット

由来

鳴子温泉地域でこけしがつくられるようになったのは江戸時代末期と推定。諸説あるが、東北に来た木地師が子どもに木の人形をつくらせたのがはじまりとされ、湯治客がおみやげに木の人形を購入し、こけしは子ども遊び道具として広まっていたと言われている。

鳴子温泉の 工人とこけし

手は事の美しさを今に伝える現役の工人たち。

工人 大沼 秀則



作 大沼 秀則

大沼力こけし工房

〒大崎市鳴子温泉字新屋敷103-6
☎0229-83-3525
🕒要問合せ
🏠不定休

工人 岡崎 斉一



作 岡崎 斉一

岡崎斉の店

〒大崎市鳴子温泉字湯元96
☎0229-83-3153
🕒7:30~21:00
🏠不定休

工人 岡崎 靖男



作 岡崎 靖男

こけしの岡仁

〒大崎市鳴子温泉字新屋敷51
☎0229-83-4051
🕒9:00~18:00
🏠不定休

工人 大沼 秀顕



作 大沼 秀顕

大沼こけし店

〒大崎市鳴子温泉字湯元93-1
☎0229-83-3163
🕒8:00~19:00
🏠不定休

工人 高橋 武俊



作 高橋 武俊

高橋こけし店

〒大崎市鳴子温泉字湯元88
☎0229-83-3431
🕒7:30~20:00
🏠不定休